

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第2回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

開催日：令和4年2月17日（木）

時 間：18:30～20:45

場 所：オンライン会議（ZOOM）

1) 会議名：第2回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化

出席者：委員6名、事務局5名

〔阿南市在宅医療・介護連携推進会議委員〕

- ・原田 晃（医療法人 医正会 原田病院 院長）
- ・村田 昌弘（阿南市那賀郡歯科医師会 会長）
- ・内田 浩二（オリーブ薬局阿南店 代表取締役）
- ・岩佐 久美（公益社団法人徳島看護協会 所長）
- ・井出 千穂（健祥会ケアプランセンター 管理者）
- ・吉村 茂宏（阿南市保健福祉部 部長）※急遽、他の公務により不参加
- ・中尾 陽子（徳島県南部総合県民局保健福祉環境部阿南 主任主事）

〔事務局〕

- ・日下 浩之（地域共生推進課 課長）
- ・松崎 由美（地域共生推進課 主査兼係長）
- ・織原 裕希（地域共生推進課 事務主任）
- ・山口 八千恵（地域共生推進課 主事）
- ・湯浅 祐司（阿南市在宅医療・介護連携支援センター センター長）

2) 挨拶

挨拶：阿南市地域共生推進課 日下 浩之 課長

在宅医療・介護連携推進事業はこれまで「阿南市在宅医療・介護連携支援センター」を中心として地域の医療・介護の資源の把握や提供体制の構築推進等を実施してまいりました。

本年3月に策定いたしました「阿南市高齢者福祉計画・第8期阿南市介護保険事業計画」においても、これまでの取り組みを更に発展させ、体制の拡大を図るとともに、関連する取り組みを実施していくこととしております。

そうした中、昨年からは、新型コロナ対策で病院への通院を避けようとする市民の皆



さんや、コロナ禍での面会禁止などの不便さを解消するために、入院治療から在宅医療に切り替える高齢者が増え、在宅医療・介護支援センターへの相談も増えているとお聞きしております。

今年度の事業については、このあと事務局からも説明があると思いますが、コロナウイルスの感染が拡大している状況において、予定していました関係事業も中止や延期、また縮小などを余儀なくされておりますが、形式や手法を工夫するなどしながら事業推進を図っていくこととしておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りたいと存じます。

豊富な経験をお持ちの皆様にご貴重なご意見をいただき、阿南市らしい在宅医療・介護連携事業を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3) 協議事項

(1) 「通いの場」におけるアンケート調査結果について

アンケート調査対象者は、はつらつデイサービス利用者、居宅介護支援事業の利用者、居宅介護支援事業利用者の家族、介護支援専門員の計4種類。※HP掲載アンケート参照。

以下が、アンケート調査結果について、議論した結果である。

- ・3年の統計を見て、第9期介護保険計画等に活かす。
- ・在宅で最後まで暮らしたい意見が多いので、在宅医療・介護の提供が必要不可欠であり、連携が重要である。
- ・歯科医師会、薬剤師会の連携強化が必要で取り組み等を知って頂くことが大事。まずは、医療・介護従事者に知って頂くため、歯科医師会・薬剤師会より研修の参加をし、顔と顔の見える関係づくりを行い今後、必要に応じて講師派遣する。歯科医師会は南部圏域の窓口が武田氏が担っているので、来年度、講演を依頼して、顔と顔の見える関係づくりを行い、連携強化を図る。
- ・ACPの認識が低いので、ACPへの取り組みが必要である。普及へは目標が大事である。強化も必要だがまずは、職種としては、お世話センター職員の看護師を重点職種とし、次に介護支援専門員とする。事例検討を上げて研修等を行い、スキルアップに繋げての普及を図る。
看護協会で行っている看看連携にも重要な取り組みとなるので連携を図る。
市民公開講座での動画配信にて、普及を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症の落ち着いたにはなるが、ケアカフェ等の顔と顔の見える関係づくりは継続して行う。

(2) 在宅医療・介護連携での課題事例について

①医療拒否による困難ケース（別世帯で暮らす家族より相談）

- ・医療受診の拒否が本人及び同居家族は強い。薬を貰っても自分でコントロールし、服薬管理もできていない。アルコール依存もあり家族の言うことも聞き入れをしない。寝たきりとなり食事摂取量も低下しており、在宅生活が困難となっている。介護保険の申請を行いたいのが主治医の意見を頂けない状態である。

⇒非常に困難なケースであるが、地域で孤立していることも視野に入れ、専門職のみならず地域での見守り・協力が必要不可欠。行政や医療・介護と連携をして、まずは受診への取り組みを行う。

②新型コロナウイルス感染症の拡大による利用者対応について

・在宅事業サービス連絡会で協議した中で、感染者・濃厚接触者へのサービス提供を阿南市で統一したルール化はできないか。

⇒各法人・事業所で統一したルールや考え方も違うので統一は難しいが、利用者の気持ちになり、必要なサービスは代替えサービスを確保し、連携で提供に繋げる。

・在宅サービスで感染者や濃厚接触者へのサービス提供が終わった後に情報が入ることが多いので、情報提供はできないのか。

⇒阿南保健所が把握している中で、公表できる情報は感染拡大への防御策として、必要機関・事業所への提供検討を行って頂く。

③阿南市における訪問入浴について

・阿南市には訪問入浴事業所が無く、サービス事業所の設置はできないか。

⇒阿南市として議論しており、人材の確保・運営に対して厳しい状況が現状である。地域共生推進課として、ニーズ把握とサービスの必要性について色々と意見を集約しながら検討を行っていく。

(3) 医療連携シートの活用について

介護支援専門員と主治医の医療連携シートとして作成しているが、活用が極少数しかできていない。そのことを受け、居宅介護支援事業所部会で検討をした結果、医師への周知ができていないのが原因との意見があり、阿南市医師会の協力により、阿南市の医師へ連携シートの活用の再周知を行った。

コロナ禍で医師との面談も困難なケースもあるが、急を要する案件の場合は、連携シートを送り、電話等でやりとりをし、介護支援専門員が支援経過に記載しての対応も行う。

また、その取り組みを実施する中で、連携シートに医師の連絡先を記載できる項目も追加してはどうかとの意見もあり、来年度にもう一度見直しを図る。

(4) 第4回ケアカフェについて

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第4回ワーキンググループ会議は中止とし、ケアカフェも動画配信とする。内容は新型コロナウイルス感染症の拡大等を鑑み、「感染症について」で講師は阿南医療センター感染対策室の原崎氏にお願いをする。撮影はケーブルテレビあなんで行い、医療・介護従事者へのみ配信とする。(※講師の個人情報保護要望)

(5) 市民公開講座について

令和4年2月12日(土)開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、動画配信に変更とした。当初計画にあった挨拶・講師はそのまま動画配信を行う。また、動画は参加申し込みも多数あったので、一般の方も見るように、阿南市HP及び広報あなんで周知を行う。ケーブルテレビあなんでの放映も検討する。

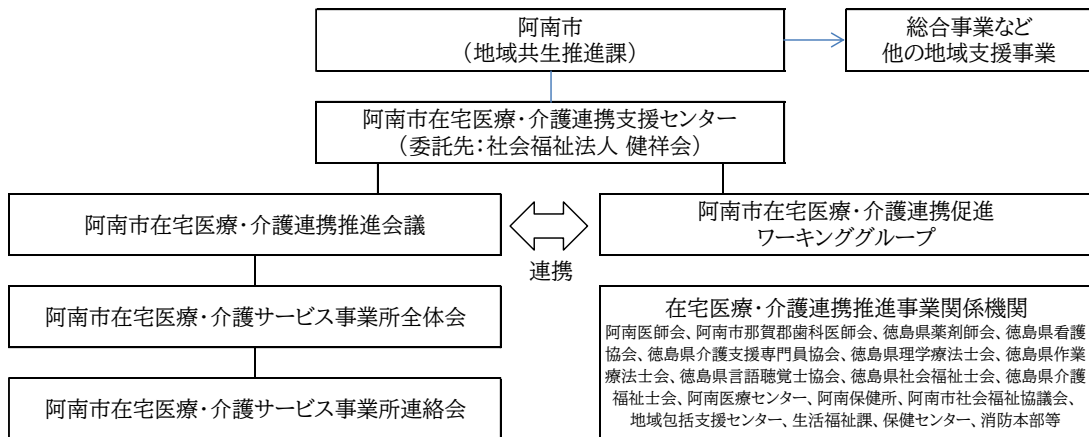
(6) 阿南市在宅医療・介護連携支援センターの今年度の事業報告及び評価について

令和3年度のこれまでの事業実施の報告及び予定について以下の内容で説明。

1. 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、住民や地域の医療・介護関係者と地域のめざすべき姿を共有しつつ、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進することを目的とする。

2. 実施体制



3. 実施内容

地域包括ケアシステムの実現に向けて、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築のため、地域のめざすべき姿を設定し、医療・介護関係者と共有した上で、地域の実状に応じ、取組内容の充実を図りつつ、PDCA サイクルに沿った取組を進める。

1) 現状分析・課題の抽出・施策立案(計画)

切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け、現状の分析、課題の抽出、施策の立案を行う。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

- ・医療機関・介護サービス事業所マップを更新し、各関係機関に配布(4~5月)

- ・阿南市通所・訪問リハビリ事業所情報の更新（10月）
- ・阿南市医療機関情報の更新（9月）
- ・阿南市認知症あんしんガイド（第2版）の作成及び普及啓発（11月）

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

阿南市在宅医療・介護連携推進会議

- ・第1回阿南市在宅医療・介護連携推進会議（令和3年7月15日）
注）令和3年10月開催予定は新型コロナ対策のため中止
- ・第2回阿南市在宅医療・介護連携推進会議（令和4年2月17日）※オンライン会議

阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ

- ・第1回阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ（令和3年5月13日）
- ・第2回阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ
（新型コロナウイルス感染対策のため中止）
- ・第3回阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ（令和3年11月18日）
- ・利用者とその家族、介護支援専門員及び「通いの場」を対象としたアンケート調査
（令和3年10～12月実施）

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進

阿南市在宅医療・介護サービス事業所連絡会

- ・グループホーム事業所連絡会（令和3年8月18日）
- ・介護老人保健施設・通所リハビリ・訪問リハビリ事業所連絡会
（令和3年11月15日）
- ・特別養護老人ホーム事業所連絡会（令和3年11月17日）
- ・（看護）小規模多機能型居宅介護事業所連絡会（令和3年11月17日）
- ・居宅介護支援事業所連絡会（令和3年11月29日）
- ・養護・経費老人ホーム事業所連絡会（令和3年11月29日）
- ・阿南市在宅医療・介護サービス事業所全体会（令和4年1月18日）

2) 対応策の実施

(ア) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ・地域の在宅医療・介護の連携を支援する相談窓口の設置・運営
- ・阿南市在宅医療・介護連携支援センター 相談員2名（介護支援専門員、看護師）

(イ) 地域住民への普及啓発

- ・阿南市在宅医療・介護連携支援センターのリーフレット作成及び普及啓発
- ・阿南市在宅医療・介護連携推進事業ホームページによる普及啓発
- ・第5回市民公開講座（新型コロナウイルス感染防止対策のため3月に動画配信予定）

(ウ) 医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための研修などの地域の実状に応じた医療・介護関係者の支援

- ① 在宅での看取り、急変時、入退院時にも活用できる情報共有ツールの整備
 - ・医療サービス連携シートの更新及び普及啓発
- ② 地域の医療・介護関係者の連携を図るための多職種連携研修・グループワーク等
 - ・第1回ケアカフェ（令和3年6月29日）
 - 内容：感染症対策について講演、グループワーク
 - ・第2回ケアカフェ（新型コロナウイルス感染防止のため中止）
 - ・第3回ケアカフェ（令和3年12月9日）
 - 内容：糖尿病、各関係機関・事業所の紹介
 - ・第4回ケアカフェ（動画配信）※阿南保健所との共催
 - 内容：感染症対策について講演、事例発表

3) 対応策の評価の実施、改善の実施

【本計画期間における目標・指標】

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	94.7%	94.8%	94.9%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	30件	35件	40件
多職種連携研修会の参加者数	210人	220人	230人
市民公開講座の参加者数	320人	320人	320人
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	30件	30件	30件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	50件	80件	100件

【実績】

区 分	令和2年度	令和3年度（1月末）
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	91.4%	91.8%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	28件	29件
多職種連携研修会の参加者数	76人	94人
市民公開講座の参加者数	58人	動画配信
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	0件	57件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	0件	29件

(委員よりの意見)

事業報告にて委員より、取り組み・計画には良い評価を頂いた。意見として、来年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、会議等は中止をするのではなく、オンラインを使用するIT化への取り組みも図って欲しいとの意見を頂いた。

来年度は、ACP・認知症・新型コロナウイルス感染症対応がメインとなるが、第8期介護保険計画でもある、横と横の関係づくりが必要である。阿南市在宅医療・介護連携支援センターの取り組みの「顔と顔の見える関係づくり」は、阿南市全体の取り組みにも良い影響があるので継続をして欲しい。

(7) その他

・薬剤師会よりの新型コロナウイルス感染症対策についての情報提供。

①コロナ感染症治療に係る薬代(コロナ感染症治療薬や対症療法薬など)はすべて無料(公費28で全額負担)。

②コロナ感染症治療以外の薬代は通常の自己負担(医療保険)あり、後日の支払い。

③コロナ陽性者の療養中に処方されたすべての薬(コロナ感染症治療に係わらず)の配送料は無料(薬剤師会で全額負担)。

④配送料無料事業は、令和4年2月末までの臨時的な措置。3月以降も継続するかは、まだ決まっていない。

・来年度も、現委員で引き続きの運営を行う。退職・人事異動等での変更があれば、阿南市地域共生推進課と協議を行い、委員の選定を行う。

【会議風景】



報告者:センター長 湯浅 祐司